
新聞報道文における **Krieg** の 概念メタファーについて

小野寺 亨太

1. 序

メタファーとは、従来、修辞法における比喩を表す一つ概念であり、暗喩とよばれている。これは、ある一つ概念を説明するために別の概念を「たとえ」として使うものだが、直喩とは異なり「～のような」という「たとえ」のための標識を表す表現が使われていないものを指す。以下で戦争に関するメタファーを説明するが、表題にある「概念メタファー」とは、Lakoff/Johnson (1980) で用いられた概念であり、修辞法とは離れ、認知言語学の中で位置づけられた概念である。Lakoff/Johnson (1980: 3) は「私達が考えたり行動したりするのに用いる日常的な概念体系は、本質的にメタファーである」という考えのもとに、言語におけるメタファー表現は、根底にある「概念的メタファー」を表現しており、そこでは、メタファーは伝達手段として経験されるものである、と捉えている。本稿でもこの考え方に従い、ドイツの新聞報道文で使用されているメタファー表現に着目し、抽象概念「戦争 (Krieg)」を形成する概念メタファーにはどのようなものがあるかを考察する。

戦争とメタファーに関する認知言語学的研究は、英語ではすでに Lakoff (1992) が 1990 年～1991 年にかけての湾岸戦争を、Imoto (2004) が 2003 年のイラク戦争を題材に行っている。本論文も、これらの研究の延長線上にあるものであり、題材は渦中のロシア・ウクライナ戦争とする¹⁾。

本論文は、まず第 2 節でメタファーと概念メタファーの関係を明確にした上で、第 3 節において「戦争 (Krieg)」の定義を確認するが、語彙意味論的な定義では規定できない意味合いを含んでいるため、戦争 (Krieg) という概念を知識として捉えることにする。知識を表示するための枠組みは、フレームやスクリプトが知

1) 2022 年 2 月 24 日から始まったロシアのウクライナ侵攻を指す。プーチン大統領は、この侵攻を **Krieg** とは呼ばず、**a special military operation** (特殊軍事作戦) と呼んでいる。詳細は、**President of Russia (24.02.2022)** を参照。

られるが、本論文では時間と共に変化する状態を捉えるために、スクリプトを用いる。第4節では、この度の新聞報道文で扱われるメタファーと思われる表現を取りあげて考察する。第5節では、さらに収集したメタファーが、対象とする概念のどのような側面を強調し、また隠しうるのかを考察する。

本稿で用いる新聞報道文は *Süddeutsche Zeitung* (以下、SZ と略) とし、侵攻初日である 2022 年 2 月 24 日の記事を取り扱う。また記事の対象は、特定の語彙で AND 検索 (Russland+Krieg+Ukraine) にか、同じ題名及び内容の記事 (11 記事) を除いた、計 50 の記事とする。

2. メタファーと概念メタファーの関係

「戦争 (Krieg)」はより具体的な概念で例えられるが、より抽象的な概念を理解するためにも使われるため、決して捉えやすい概念とは言えない。また様々な要素が組み合わさった概念であるため、一言で言い表わすのも困難である。したがって本節ではまず、語彙の定義を確認する前に、根本的に人の概念体系の大部分を成り立たせている<メタファー>という概念を取り上げる²⁾。メタファーは、「～のような」を用いず、「ある事柄を他の事柄を通して理解し、経験すること」を指し、これは認知言語学で盛んに取り上げられる比喻 (メタファー、メトニミー、シネクドキ) の一種であった³⁾。以下に具体的にメタファーとは何かを例を挙げながら確認する。例えば<議論>と言う概念は、以下の Pielenz (1993: 69) の (1) の例のように戦争用語をよく用いる。

- (1) a. Er attackierte jeden einzelnen Schwachpunkt seiner Argumentationen.

彼は議論のあらゆる弱点を攻撃する。最上 (1994: 75)

- b. Wenn du diese Strategie fährst, dann wird er dich vernichten.

このような戦法で行けば、彼にやられてしまうよ。最上 (1994: 75)

- c. Nach diesen Angriff konnte ich meine Position nicht länger halten.

このような攻撃の後で、私はもはや立場を保てなかった。最上 (1994: 76)

2) Lakoff/Johnson (1980: 3) 参照。

3) レイコフ/ジョンソン (1986: 6) 参照。

d. Er verteidigte seine Argumentation mit allen Mitteln.

彼はあらゆる手段で議論を擁護した。最上 (1994: 76)

しかし「議論」というのは、(1a) のように「議論を物理的に攻撃する」ことも、(1c) のように、通常は「議論において物理的な攻撃をする」こともない。ただ、ここでは「戦争」の参与者（兵士）や行為（武器での攻防）、計画（戦法）の要素がそれぞれ、兵士は論者に、攻防は主張に、戦法は論法へと「議論」を理解するために補われている。つまり、より具体的な概念である戦争「起点領域 (source domain)」から、より抽象的な概念である議論「目標領域 (target domain)」への特定の要素の写像が行われている。このようにメタファーは、実際には意味的に成立しないと思われる表現を、構造の類似した別の概念の要素で断定的に喩えることによって、抽象的な概念の理解を容易にする働きをしている。

また、上記の (1) の「議論」を説明している例は、全て「戦争」の構造に当てはまる。よって、「議論は戦争である」と言える。さらに「議論」という概念は、「戦争」以外に、以下の Pielenz (1993: 70-71) における (2) の例のようなメタファーによって説明される。

(2) a. Wir sind davon ausgegangen.

「我々はこの点から出発した。」最上 (1994: 76)

b. Wir kamen zu einem beunruhigenden Schluß.

「我々は憂慮すべき結論に到達した。」最上 (1994: 77)

c. Dein Argument hat nicht viel Substanz.

「君の議論はあまり内容がない。」最上 (1994: 77)

d. Dein Argument hat Lücken.

「君の議論には穴がある（欠陥がある）。」最上 (1994: 77)

e. Deine Arugumente (Theorien) haben kein Fundament.

「君の議論（理論）には土台がない。」最上 (1994: 77)

f. Deine Theorie bricht auseinander.

「君の理論は崩壊する。」最上 (1994: 77)

(2a)、(2b) の例は、議論には出発点と終点があるものだとしているため、<議論は旅である>といえる。また (2c)、(2d) の例では、議論が何か (液体など) を溜める物体であると喩えているため、これは<議論は容器である>といえる。さらに、(2e)、(2f) の例では、議論を明らかに建物に関して用いる表現で記述しているため、これは<議論は建物である>といえる。

このように一つの概念を様々な別の概念で喩えることができ、一定のメタファーのグループが出来てくる。このようなメタファーの根底にあるようなグループを<概念 (的) メタファー>といい、認知言語学では、上記のように A ist B や A als B < A は B である > で示す (以下の図 1 参照)。

以上を踏まえ、第 3 節では、Krieg の定義、構造を確認し、第 4 節では実際に今回の Krieg にはどのようなメタファーが存在するのかをみていく。

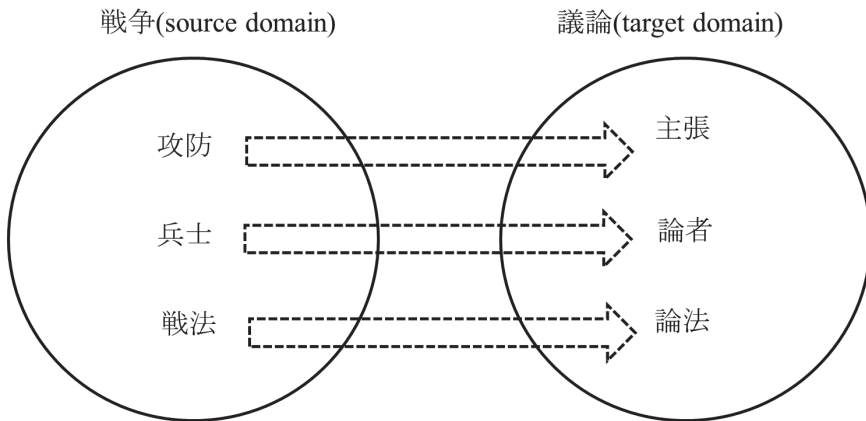


図 1: メタファー「議論は戦争である」

3. 「戦争 (Krieg)」とは

本節では、Schubert/Klein (2020) の Krieg の定義を元に、Krieg の体系、Krieg の流れを「スクリプト」を用いて整理する⁴⁾。

3.1. Krieg の定義

Schubert/Klein (2020) は、Krieg を以下のように定義している。

4) 「スクリプト」の定義に関しては、2.2. を参照。

Allg.: Krieg bezeichnet einen organisierten, mit Waffen gewaltsam ausgetragenen Konflikt zwischen Staaten bzw. zwischen sozialen Gruppen der Bevölkerung eines Staates (Bürger-K.).

「Krieg とは、組織化された武器を用いた暴力的に行われる争いを示し、それは国家間、あるいは、ある国の住民の社会的集団の間（内戦）で行われるものである。」（筆者訳）

また Schubert/Klein (2020) は、Krieg を以下の 5 つに区分している。

- 「1) 原因に応じた区分：イデオロギー的要因による戦争、植民地戦争、経済戦争、また独立戦争など。
- 2) 目的に応じた区分：侵略戦争、介入戦争、制裁戦争、自衛戦争、また解放戦争など。
- 3) 形式に応じた区分：正規の戦争、パルチザン戦争、民族戦争、民兵戦争、ゲリラ戦争など。
- 4) 使用される武器に応じた区分：通常戦、核戦争、細菌戦争、化学戦争、また陸戦、海戦、空中戦など。最近では、サイバー戦争が特に重要視されている。
- 5) 空間的な区分：局地的、地域的な戦争または世界大戦など⁵⁾。」（筆者訳）

この定義から見てとれるのは、Krieg が究極的には<武器>を用いた **Konflikt** <争い>であり、規模が比較的大きいものを指す、ということだ。さらに、原因、目的、形式、使用される武器、空間的区分で下位分類されうる。しかし、上記の定義からは戦争の持つダイナミックな特性が見えてこない。したがって、次節では Krieg の出来事としての構造を考えることにする。

3.2. Krieg の構造

3.1. の Krieg の定義では、Krieg を構成しているものは何か、時間の経過とともに Krieg はどのように変化していくのかが捉えられていない。そこで、本節では「ス

5) Schubert/Klein (2020: 209) 参照。

クリプト」という概念を用い、Krieg の内部構造の考察に努める。「スクリプト」は Schank/Abelson (1977) によって以下のように説明されている。

「特定の文脈における適切な出来事の順序を記述する構造であり、(…) 様式化された日常的な状況を扱い、(…) よく知られた状況を定義する、あらかじめ決められたステレオタイプのな行為の連鎖」⁶⁾。(筆者訳)

つまり、スクリプトを用いることで、ある概念の参加者や関係物、人物の配役、その登場条件を挙げ、概念を一連の出来事として捉えることができる。これによって、ある事態をまとまった知識として表現することが可能になる。有名な「レストラン・スクリプト」では、人がレストランに入っていく一連の出来事を記述することで、レストランに入っていく会話の理解や、それに付随する推論が可能になっている⁷⁾。

このようなスクリプトの概念を用い、Krieg の持つ出来事の特徴を以下のように表示することを提案する。

<スクリプト : Krieg >

道具類 :	人材 (兵士、軍医、従軍看護師など)、武器、乗り物、物資 (食料、衣料品など)、資金
配役 :	2つ以上の団体 (国家)、あるいは侵略団体 (軍隊 + 反乱軍)、防御団体 (軍隊 / 民間兵)、被害者 (民間兵 / 民間人)、第三者 (仲介団体、支援団体)
起動条件 ⁸⁾ :	1. 団体の片方が、もう片方の団体に対して宣戦布告をする ⁹⁾ 。 2. 侵略団体がある国に一方的に攻撃を仕掛ける。
結果 :	1. 片方の団体が敗北する。 2. 侵略者側、あるいは防御者側の団体が敗北する。 1.& 2. 双方や仲介団体を含めた話し合いや勝者側の条件によって、領土的、経済的、思想的な決定がなされる。

以下、<スクリプト : Krieg > を順にみていくことにする。<スクリプト :

6) Schank/Abelson (1977: 42) 参照。

7) 戸田他 (1986: 155-159) 参照。

8) 荒木 (1998) では、戸田他 (1986) の「登場条件」を「起動条件」と名づけている。

9) Brockhaus (2013) の説明には、Krieg は „(…) bewaffnete Auseinandersetzung zwischen zwei oder mehreren Staaten, Bündnissen (…)" “国家、同盟 (…)" 間の武力的な対決」とある。

Krieg >は4つの構成概念で成り立っている。まず Krieg が必要とする<道具類>には、人材（兵士、軍医、従軍看護師など）、武器、乗り物、物資（食料、衣料品など）、資金が含まれる。次に具体的な参与者として<配役>が関与する。そこでは2つ以上の団体（国家）、あるいは侵略団体（軍隊+反乱軍）と防御団体（軍隊/民間兵）、被害者（民間兵/民間人）、第三者（仲介団体、支援団体）が挙げられる。ここで<登場条件>は2つ可能性がある。一つはある団体の片方がもう片方の団体に宣戦布告をし、同意することで戦争状態になる場合である。このような戦争参加者が互いに同意し戦争状態に突入することや、互いの兵士を戦わせることが国際法上では一般的なルールとされている¹⁰⁾。しかし現実にはこのような形で戦争が開始されるとは限らない。それに該当するのは、今回のロシア・ウクライナ戦争のような場合である。つまり、ある団体が一方的に宣言し、相手の同意なしに攻撃を始める場合である。そこでは侵略側の軍隊と現地の反乱者で構成された<侵略団体>と、それを阻止する軍隊、民間兵でできた<防御団体>がある。防御団体の中で立場の弱い民間兵（民間人）は戦中に捕虜にされるなどして<被害者>となりうる。さらにどちらの起動条件を経ても第三者という<配役>が考慮される。例えば、仲介団体、支援団体、義勇軍、傭兵が第三者として挙げられる。それらが戦中に、片方の団体の支援や加勢を行う、また敵側への制裁措置を取るなど、双方の争いに仲介する可能性がある。さらに、Krieg というのは一時的に休戦する可能性もある。しかし<結果>的には、侵略団体、あるいは防御団体、どちらか片方が敗北することになり終戦を迎える。そこに至る理由は、目的の達成、統率者の死、武力による決着、双方の話し合いに基づくものなど多岐にわたる。最終的には、双方の団体や第三者を含めた話し合い、勝利した団体の提示する条件などによって、領土的、経済的、思想的な決定がなされる。

上に提示したスクリプトの記述を踏まえ、Krieg の流れを図式化し整理すると、Krieg の開始を<第1場（開戦）>、Krieg の最中を<第2場（実戦）>、戦争状態の中断を<第3場（休戦）>、Krieg の終わりを<第4場（終戦）>、Krieg の

10) Brockhaus (2013) の Krieg の説明には、„Nach wie vor gilt der Grundsatz, dass durch die Kriegserklärung der Rechtszustand des Krieges eintritt; die diplomatischen Beziehungen der Kriegsgegner sind mit diesem Schritt beendet.“「依然として、宣戦布告によって戦争の法的な状態が発生し、また、戦争当事国の外交関係はこの段階を持って終わるという原則が適用される。」とある。

後処理を<第5場（戦後処理）>と、5つに区分できるだろう（以下の図2参照）。

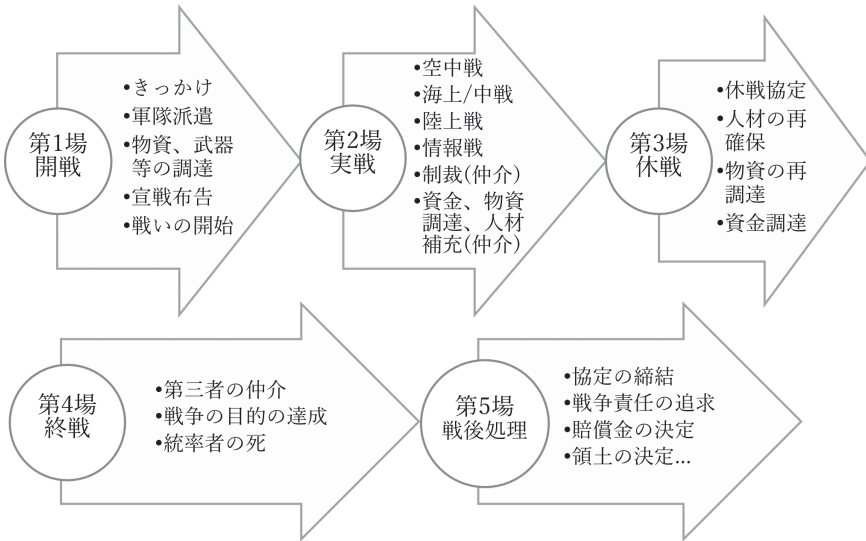


図2：Kriegの流れと詳れ

4. SZにおけるKriegに関する概念メタファー

本節では、ロシア軍のウクライナ侵攻初日（2022年2月24日）のSZからAND検索（Russland+Krieg+Ukraine）で収集したメタファーを第3節で作成したKriegの場面に当てはめ、それらがどのように形成されたのかを考察する。

4.1. 第1場（開戦）のメタファー

(3) UNERWARTETE/-R INVASION/ KRIEG IST EIN EINSTURZ DES KARTENHAUSES

（予期せぬ侵攻 / 戦争はカードハウスの倒壊である）

Nur Tage zuvor hat Russland die Krim besetzt, dann annektiert. Für das Miteinander in Europa ist das eine Katastrophe; für Steinmeier aber ist es auch eine persönliche Enttäuschung. Dass Wladimir Putin so weit gehen würde, hatte er nicht erwartet; dass

Lawrow im Genfer Hotel auch noch so tun würde, als habe das keine Konsequenzen, schlägt Steinmeier die Sprache. **In einem einzigen Moment bricht für ihn ein großes Kartenhaus zusammen.** Über Jahre hatte er gehofft, Berlin und Moskau würden trotz unterschiedlicher Interessen auf einer gemeinsamen Grundlage handeln.

わずか数日前に、ロシアはクリミアを占領し、そして併合した。欧州の協力関係にとってそれは災難だ、そしてシュタインマイヤーにとってそれは個人的な失望でもある。ウラジーミル・プーチンがここまでやるだろうことを彼は予期していなかった、ラブロフがジュネーブのホテルでそのようなことをするだろうとは、シュタインマイヤーは言葉を失う。ほんの一瞬の間に、彼にとっての大きなカードハウスが倒壊したのである。何年も前から彼は望んでいた、ベルリンとモスクワが、異なる利害関係にも関わらず共通の基盤において行動することを。(筆者訳)

S. BRAUN/ P. BURGHARDT/ P. FAHRENHOLZ/ M. SZYMANSKI (24.02.2022)

„Das Ende der Putin-Versteher“ SZ.

(3) の例は、予期せぬ侵攻をカードハウスの倒壊で表現している。〈カードハウス〉とは、トランプを積み重ねてできた家のような見た目を持つが、わずかな風や振動で倒れてしまうものだ。ここでは、親ロシア外交を推進してきたシュタインマイヤーが、ロシアがウクライナの予期せぬ侵攻を行ったことで、築き上げてきたはずの信頼関係が、表面上のものであったという事実とともに、それが突如崩れる様を〈カードハウス〉という言葉を用いて表現していると思われる¹¹⁾。

4.2. 第1場（開戦）から第2場（実戦）間のメタファー

(4) KRIEG IST EIN BRAND（戦争は火事である）

Das sind die Worte eines Wahnsinnigen, dem nun die Härte und Entschlossenheit des Westens entgegenschlagen muss. Niemand will einen Krieg mit Russland führen, aber

11) 詳細は、産経新聞（13.04.2022）を参照。

Putins Russland könnte diesen Krieg erzwingen wollen. **Den Flächenbrand zu verhindern**, ist nun oberstes Ziel aller westlichen Politik. Der Krieg ist zurück in Europa, er darf sich nicht ausweiten.

これは狂気の言葉である、今、西側諸国の強靱さと決意が、立ち向かわなければならぬ。誰もロシアと **Krieg** をしたくはないが、プーチンのロシアはこの **Krieg** を強制したいのだろう。この広範囲の火事を防ぐことは、今、すべての西側諸国の政策の最優先事項である。この **Krieg** がヨーロッパに戻ってきた、この **Krieg** はこれ以上広めてはいけない。(筆者訳)

SZ (24.02.2022) „Putins Krieg, Europa Angst“ SZ

(4) の例は、**Krieg** を火事の燃え広がるという性質で喩えている。＜火事＞は燃え広がり、それを放置していれば、さらに威力を増し、人のコントロールが効かないところまでいってしまう。それを **Krieg** に当てはめるならば、最初是一对一の戦いだったはずが、隣国、また世界を巻き込む騒動と化すことがある。このような **Krieg** の一面と以上の＜火事＞の性質をリンクさせてきた比喻と推測できる。

(5) SANKTION IST EINE WIRTSCHAFTLICHE WAFFE

(制裁は経済的な武器である)

In den Krieg will von den Freunden der Ukraine niemand ziehen. **Sie wollen mit den Waffen der Wirtschaft kämpfen: mit Sanktionen.** Am Donnerstagabend besprachen die 27 EU-Staats- und Regierungschefs die Krise bei einem Sondergipfel in Brüssel und verständigten sich dabei auf ein neues Strafpaket gegen Russland. Das vorherige war ja erst am Mittwoch verabschiedet worden. In den Schlussfolgerungen des Gipfels heißt es, dass sich die EU-Regierungen „auf weitere restriktive Maßnahmen“ geeinigt hätten, „die massive und ernste Konsequenzen für Russland“ bedeuteten.

ウクライナの友人たちは誰も Krieg を望んでいない。彼らは経済という武器、つまり制裁で戦おうとしている。木曜日の夜、EU の 27 カ国と政府がブリュッセルでの特別首脳会議の際にこの危機について話し合い、その際ロシアに対する新たな制裁措置のパッケージに合意した。前回の措置は水曜日に採用されたばかりだった。首脳会議の結果は、EU 政府が「更なる制限的措置」に合意したようで、「ロシアに対し大規模かつ深刻な結果をもたらす」ことをほのめかした。(筆者訳)

SZ (24.02.2022) „Mit den Waffen der Wirtschaft“ SZ

(5) の例は、制裁を武器に喩えている。〈制裁〉とは、「特定のふるまいにおいて、報いる（有利な制裁）、あるいは、罰する（不利な制裁）反応を指す。報いと罰の両方が、最終的には（永続的な）規範の遵守に繋がる」ものだ¹²⁾。また〈武器〉とは、戦うための道具である。しかし時には自身や組織、国などを守るときにも使われる。それを〈制裁〉に適用すれば、基本的には決まりに反した行いをした者や国を罰するためのものではあるが、それらに罰を与えることで、同時に自分たちの身を守っているともいえよう。この武器の攻防で用いるという性質と〈制裁〉の罰する、また同時に守るという類似の性質から比喩が生じたと考えられる。

(6) OEKONOMISCHE SANKTION IST EINE BOMBE

(経済的な制裁は爆弾である)

Hier könnte es dann darum gehen, Russland vom Zahlungssystem Swift abzukoppeln, über das internationale Geldtransfers abgewickelt werden. **Dort ausgesperrt zu werden, bezeichnete der Chef der russischen Staatsbank VTB, Andrej Kostin, einmal als „finanzielle Atombombe“.** Ähnliche Sanktionen gegen Iran führten dazu, dass der Außenhandel des Landes um ein Drittel schrumpfte.

ここではそうすると、ロシアを決済システム Swift から切り離すということにな

12) Schubert/Klein (2020: 306) 参照。

りうる、国際的な送金を処理するシステムから。かつてスウィフトから締め出されることを、ロシアの国営銀行VTBのトップであるアンドレイ・コスチンは、「金融核爆弾」と表現したことがある。同様の制裁をイランに対しても行った、その国の対外貿易は3分の1にまで縮小したという。(筆者訳)

SZ (24.02.2022) „Mit den Waffen der Wirtschaft“ SZ

(6) の例は、経済的な制裁を(核)爆弾に喩えている。〈核爆弾〉とは、大規模で破壊力のある爆弾であり、二次的に落とされた地域には放射能汚染が生じ、その影響は最悪、非常に長期間持続するものである。この一度その効力を発揮してしまえば、ほぼ以前の状態に戻ることはないという特徴がこの制裁に反映されていると思われる。つまり、この比喩は、世界規模の経済システムという場から一時完全に切り離され、後にそう簡単に復帰できる可能性が薄いことを表しており、いかに今後、ロシアの経済に打撃を与えるか、影響を及ぼしうるのかを表しているものだと考えられる。

4.3. 第3場(戦中)から第5場(戦後処理)間のメタファー

(7) TERRITORIALSTREIT IST EIN SPRENGSTOFF (領土紛争は爆薬である)

Für Peking ist das ausgesprochen heikel, Sprengstoff in der Taiwan-Frage: Zwei von Separatisten kontrollierte Regionen auf dem Territorium eines souveränen Staates, mit dem China Beziehungen unterhält. Aus chinesischer Sicht handelt es sich bei Taiwan um eine abtrünnige Provinz, wehe dem, der sich Taipeh nähert, wie jüngst Litauen erfahren musste. Da ging es nicht einmal um diplomatische Beziehungen, sondern lediglich um die Frage, ob auf dem Messingschild eines Verbindungsbüros in Vilnius „Taipeh“ oder „Taiwan“ stehen darf.

その協定は、2つの親ロシア派の分離主義地域がウクライナの自治領となることが予定されていた。プーチンが協定を破棄し、ドネツク人民共和国とルハンスク

人民共和国を承認することを決めるまでは、北京にとってそれは非常に慎重を要し、台湾問題においては爆薬である。それというのはある独立国の領土の分離主義者によって統治された土地の二つである、それは中国と関係のあるものだ。中国側からみれば、台湾は裏切りの州であり、台湾に近づくものは、ただでは済まない、リトアニアが最近経験しなければいけなかったように。外交上の関係ではなく、ヴィリニウスのある連絡事務所の看板が「台北」なのか「台湾」なのかだけであったからだ。(筆者訳)

CHRISTOPH GIESEN (24.02.2022) „China und das Ukraine-Dilemma“ SZ

(7) の例は、領土問題を爆薬に喩えている。〈爆薬〉とは、ダイナマイトなど、物を破壊するための道具であり、安易に使えるが一度点火してしまうと爆発までの時間も少ないため使用に慎重を要し、破壊力もある武器である。ここでは中国と台湾の領土問題を〈爆薬〉に喩えているが、安易に一度でもそのテーマに手を付けてしまうと、両者一步も引かない凄まじい論争が繰り広げられ、なかなか収まりきらず永遠に終わらないような状況に陥る可能性の高い。この一度発するだけで、戦いのような論争にまで発展してしまう、特にこの中国と台湾の領土問題を〈爆薬〉の性質を用い喩えた比喻だと思われる。

(8) VERHANDLUNG IST EIN ZIMMER, IM DEM SICH VIELE TUEREN
BEFINDEN

(交渉は多くのドアがある部屋である)

(...) Einen kriegerischen Angriff werde Putin nicht durchführen, glaubte Bocklet zu diesem Zeitpunkt noch. Denn damit würde er sich „**jede Tür**“ für Verhandlungen „**zuschlagen**“. Leider zeigten die Ereignisse am drauffolgenden Morgen, dass er den russischen Präsidenten wohl unterschätzt hat.

好戦的な攻撃をプーチンはしないと、この時点ではまだボックレットは信じていた。というのも、それでは彼は交渉のための「すべての扉」を「ぱたんと閉めて

しまう」ことになるだろうからだ。しかし残念なことに、翌朝の出来事は示した、彼がロシアの大統領を侮っていたことを。(筆者訳)

SZ (24.02.2022) „Bocklet täuscht sich in Putin“ SZ

(8) の例は交渉を多くのドアがある部屋に喩えている。まず<交渉>と言うのは、「ある合意を得るために、誰かと何かを協議すること、談判すること」である¹³⁾。<ドアの多くある部屋>とは、ドアが少ない部屋に比べ、人の出入りの自由度が高い部屋であり、そのような部屋では多くの人に会い、様々な意見から利害を考えた上で結論を出せるだろう。他方、今回のプーチン大統領の宣言は、互いの利害を考えない決定である。したがってこのメタファーは、交渉の中でも大人数で行う交渉の性質を<多くのドアがある部屋>に例えていると考えられる。

本節では、Kriegに関するメタファーがどのように構成されたのかを考察したが、それらのメタファーが与える効果に関しては全く触れなかった。したがって次節では、メタファーが持つとされる概念の一部分を強調するという性質を頼りに、上記のメタファーで対象となっている概念ではどのような側面が強調され、逆に隠されているのかを考察する。

5. Kriegに関するメタファーの働き

Lakoff (1992) は、メタファーが概念の意味の一部分を強調する働きを持つとしており、そのようなメタファーの一性質を<人としての国家>メタファーを例に以下のように説明している。

「人としての国家メタファーは国家の内部構造を隠し、クウェートを単一的な存在、おとぎ話で救われる無垢な少女のように考えることを可能にし、(…)クウェートの君主制的な性格や、クウェート政府が自国の反対派や外国人労働者をどのように扱っているかを隠し、(…)イラクの内部構造を隠してしまうので、戦争でほとんど殺されたり、傷つけられたり、その他の被害を受けることになる実

13) DWDS – Wörterbuch (2022) 参照。

際の人々をも隠してしまい、シーア派、スンニ派、クルド人の間のイラクの政治的分裂も隠されてしまい、(…)アメリカの内部構造も隠されてしまう。そのため貧しい人々や少数民族が、大きな利益を得られないまま最も犠牲を強いられるという事実も隠されている。そして、中東の政治を動かしている主要な思想を隠してしまうのである¹⁴⁾。(筆者訳)

上記のようにメタファーには、概念のある部分を際立たせ、ある部分を隠す性質がある。では、収集したメタファーにはどのようなことがいえるだろうか。本節では、それらのメタファーが、対象とする概念のどのような側面を強調し、また隠しうるのかを考察する¹⁵⁾。

(3) UNERWARTETE/-R INVASION/ KRIEG IST EINSTURZ DES KARTENHAUSES

(予期せぬ侵攻 / 戦争はカードハウスの倒壊である)

まず今起きているロシア・ウクライナ戦争は、正規の Krieg の手順を踏んでいない (2.2. を参照)。これはプーチン大統領のウクライナでの軍事作戦の宣言を機に、客観的に見れば侵攻という形から入ったものである。そのため (3) の例は、今回のような特殊なケースにおける Krieg 特有のメタファーであろう。またこのメタファーは、ウクライナとロシアの関係に関する記述ではなく、ドイツとロシアの共通理解が損なわれたことを意味している。したがって、ここでは Krieg を、脆い性質を持つカードハウスに喩えることによって、Krieg が信頼を容易く破壊するものとして捉えられている。他方、Krieg に直接関係のある当事国同士の関係や現地の様子等の側面は隠されている。この第三者的な記述に関しては、Lakoff (1992) では説明が無いが、Lakoff (1992:26) の湾岸戦争における直接参加者が、他の概念メタファー (国家は人メタファー / 政治はビジネスメタファー等) によって、被害者や実態が隠されるという現象に類似している。

14) Lakoff (1992:26) 参照。

15) 本節の考察では、事柄の背景的な情報を含め、また類似した性質を持つメタファーはまとめて取り扱う。

(4) KRIEG IST EIN BRAND (戦争は火事である)

(7) TERRITORIALSTREIT IST EIN SPRENGSTOFF (領土問題は爆薬である)

(4) と (7) の例は、**Krieg** を火で喩えたメタファーである。ここで使われている火は、戦争も領土問題も、何者かが行動しなければ生じないものであるため、意図的な火事のようなものと思われる。

まず (4) の例は、一対一の争いがヨーロッパ全土に拡大しないよう、最大限努力しようという内容である。そのことから<争いは火>メタファーの存在が背後にうかがえ、争いの規模によって火の粉が飛び散る範囲が違ふと考えられる。例文は **Krieg** の場合であるため、かなり規模が大きいことが分かる。またここでは、国家を戦う者同士と見ているため、<国家は人>メタファーも存在する。このメタファーは国家を人として強調する代わりに、具体的な国内における被害者、犠牲者などの情報は隠している。

また (7) の例は、**Krieg** によって残される問題に言及する火のメタファーである。これも (3) の例と同様に、第三者的に捉えており、中国と台湾、リトアニアとポーランドの領土問題を、ウクライナとロシアの領土問題に写像している。ただしこのメタファーは、領土問題の厄介さを強調するあまりに、すべての国家の政治的思考や地理的側面、歴史的背景の差異を排除してしまっている。

(5) SANKTION IST EINE WIRTSCHAFTLICHE WAFFE

(制裁は経済的な武器である)

(6) OEKONOMISCHE SANKTION IST EINE BOMBE

(経済的な制裁は爆弾である)

(5) と (6) の例は、**Krieg** を経済の側面から見たメタファーである。(5) の例では、制裁を経済の武器としている。また (6) の例で使われているメタファーは、(5) の例で使われているメタファーの下位のメタファーである。このメタファーはこれまでのものとは違い、当事国に直接的に言及をしている。このメタファーはロシアの経済的打撃と経済システムへの再加入の困難さを際立たせている一

方、他国やヨーロッパ全域における経済的な利害の側面を隠している。これは、「有益な「目的」を定義すること、「費用」を集計すること、そして目的を達成することが「費用に見合う」ものかどうかを判断する」メタファー、言い換えれば利害関係で Krieg の終始が定められる〈政治はビジネスメタファー〉の内、〈費用便益分析〉メタファーに該当するものだ¹⁶⁾。

(8) VERHANDLUNG IST EIN ZIMMER, IM DEM SICH VIELE TUEREN
BEFINDEN

(交渉は多くのドアがある部屋である)

(8) の例のメタファーは、戦中（第3場）から戦後処理（第5場）間に行われる、交渉についてのメタファーである。このメタファーは、多くのドアがある部屋の、様々な人の出入り、意見の交換がなされる場であるという性質を、特に大人数で行う交渉に当てはめ、多様な意見を聞くことで良い結論を導くことができることを強調している一方、その具体的な内容（交渉の目的、理由、利害、交渉条件など）や過程には一切触れることなく、ただ大人数での交渉の利点のみを一方的に強調している。

6. 結語

本論文では、SZ におけるロシア・ウクライナ戦争の新聞報道文で扱われている Krieg に関するメタファーを対象に、認知言語学的な立場から、Krieg の概念メタファーの分析を行った。その結果、以下の3点が収集したメタファーでは顕著であった。

- 1) 戦争の当事国では無いためか、客観的なメタファーが多く見受けられたこと。
- 2) 個々の事情が均一かのような印象を与えるメタファーが多くあったこと。
- 3) SZ の侵攻初日記事では、本文でメタファーが使われる割合が低いということ。

16) Lakoff (1992: 2) 参照。

なお、時間的な制約から、対象としたデータが一つの新聞社だけであり、一日分（2022年2月24日分）のみが研究対象となっているが、今後、対象とする新聞の数を増やし、期間を広げることにより、より一般的な分析へとつながると予想している。

また本論文では付随して、収集したメタファーがアドホックなメタファーか、今回のロシア・ウクライナ戦争の新聞報道文における特有のメタファーなのかについては十分な考察ができていないが、それについては今後の課題としたい。

参考文献

- 荒木雅弘（1998年5月13日）「対話・談話理解技術の概要」、京都大学 大学院情報学研究科 / 工学部 情報学科 計算機科学コース、URL: <http://winnie.kuis.kyoto-u.ac.jp/members/araki/slu/node14.html>（参照日：2022年12月26日）。
- Brockhaus（2013）*Krieg*. URL: <http://brockhaus.at/ecs/enzy/article/krieg-20>（abgerufen 23.11.2022）.
- Dancygier, Barbara/ Sweetser, Eve（2021）『比喩とは何か—認知言語学からのアプローチ』（野村益寛他訳）開拓社。
- DWDS – Wörterbuch（2022）*Verhandeln*. URL: <https://www.dwds.de/wb/verhandeln>（abgerufen am 23.11.2022）
- Imoto, Yuki（2004）*Systems of war: a cognitive semantic approach to media text analysis. Technical Report*. URL: https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=0302-0000-0460（abgerufen am 30.11.2022）
- Lakoff, George/Johnson, Mark（1980）：*Metaphors we live by*. Chicago: University of Chicago Press.
- レイコフ、G. / ジョンソン、M.（1986）『レトリックと人生』大修館書店。
- Lakoff, George（1992）：*Metaphor and War: The Metaphor System Used to Justify War in the Gulf*. UC Berkeley: Department of Linguistics. URL: <https://escholarship.org/uc/item/9sm131vj>（abgerufen am 20.10.2022）
- 松本曜編（2003）『認知意味論』大修館書店。
- 三井美奈（2022年4月13日）「独大統領、ウクライナ訪問を拒絶される 過去の

- 親露外交で」、産経新聞、URL: <https://www.sankei.com/article/20220413-BZRELJVM35K47IEI37DCQ3C3TY/> (参照日：2022年11月8日)。
- 最上英明 (1994) 「メタファーと認知」 香川大学一般教育部『香川大学一般教育研究』、71～80 ページ。
- 大堀壽夫 (2002) 『認知言語学』東京大学出版会。
- Pielenz, Michael (1993): *Argumentation und Metapher*. Tübingen: Gunter Narr.
- President of Russia (24.02.2022) Event · President of Russia. URL: <http://en.kremlin.ru/catalog/countries/UA/events/67843> (abgerufen am 20.10.2022)
- Schank, R.C./Abelson, R.P. (1977): *Scripts, Plans, Goals and Understanding*. Lawrence Erlbaum Associates. Hillsdale, New Jersey, 1-248.
- Schubert, Klaus/Martina, Klein (2020): *Das Politiklexikon. Begriffe. Fakten. Zusammenhänge*. Bonn: Dietz.
- 戸田正直／阿部純一／桃内佳雄／徃住彰文 (1986) 『認知科学入門：「知」の構造へのアプローチ』サイエンス社。

